



慶安人平記 六目錄

一 正高ホト似に在に別べつとと有ある事

一 奥おく村むら由よし井い九く橋はし暮くれ合あ事

一 流なが更さら村むら平へい江え上かみの事

一 谷や田た産う之の米こめ林はやし木き倉くら又また兵へい宗そうが事

一 正ただ高たか平へい家け相あ終はる事

一 三さん浦うら長なが門かど中なか殿どの江え戶と之の長なが事



慶安大日記 六

正高似を判有る事

まゝバ仙臺^{くだい}歌^{うた}射^う事^{こと}を^を判^は判^はを^をと^と小^こ隠^ひ水^{みづ}な^なき^き是^{こゝ}全^{ぜん}く^く正^{ただ}
 高^{たか}を^を似^に似^に小^こ樹^{じゆ}て^てな^なし^しと^と風^{かぜ}吹^ふけ^けし^しの^の巴^は巴^はを^を結^{むす}結^{むす}馬^ま一^{いつ}つ^つ身^み
 取^と取^と不^ふ不^ふ人^{ひと}に^に及^{およ}び^びり^りる^る西^{せい}高^{こう}何^{なに}事^{こと}も^も然^{しか}大^{だい}名^な名^なと^と憎^{にく}む^む人^{ひと}を^を極^{ごく}
 ふ^ふと^と言^いふ^ふも^も其^{その}細^{こま}細^{こま}に^に言^いふ^ふは^は口^{くち}外^{がわ}に^にお^お次^{つぎ}事^{こと}は^は叶^{かな}へ^へず^ず後^{のち}は^は小^こつ^つと^との^の命^{いのち}
 取^とり^りける^る信^{しん}之^の福^{ふく}小^こ流^{りゅう}人^{にん}又^{また}ハ^ハ在^ある^るに^に候^{まう}れ^れ居^いる^る所^{ところ}の^の流^{りゅう}人^{にん}と^と違^{ちが}ひ^ひ

ける兼る紀列大初公於宣公の以形と仰り不懐と違す
於てハ其君親小依て一玉之主たり又二分を知所と稱
源人、其の多んとおもたれ 大初公於宣公の以形と
也記しては源一ける以形ハ虎の尾の内ニ形意ニハ文字
なり西宮形の家ニ東冷しハ一盡也きて末と認也母て似
吾別を掛らハ是一となり元東公言ハ紀列大初公於宣公
疑く採集と於み存るべき心感なりハ昔時交志供所
時紀列大初公於宣公の以形と仰り不懐と違す
私にも嘗小字一を一とや又形の家ニ扁子一益也一ハ
元東大初公於宣公の以形と仰り不懐と違す
時紀列大初公於宣公の以形と仰り不懐と違す
けちとなり別して別の家と稱一事昔もた免一たり大初
秀名公の以形と仰り不懐と違す
かしざるをなりとして其意と下と通一とや一其のハ其

會津兼沢と大なる海生飛深る秀河ハ出振奥剣にて百九
百石之領主なり時ニ伊達陸奥也政宗云ハ何年令津兼
沢之領主と滿達を拜命スル也と謀りて之を討つ南於凡
のへんこ城主也南於陸奥大備小謀叛と云々免合戦小及び
なり出るに陸奥大夫城也ニケ不切きて勢ハ削奪ん
大岡田中知小よりて備前守の大石軍兵也この向程なく
陸奥大夫波路して其時政宗の求中張島と初一大石

田八郎兵衛手代想い信と小入人そ者子相なりて流人そが
ける九政宗云と信と南於陸奥大夫が謀叛と云々政宗こ
進み小信てなりと政宗の自筆に兼河と云海生秀河と
進と次一ツのバ秀河別け年と大石と別けはバ大岡田其外
此立振兼早速政宗云と云云と兼河大石の此亦ハ福大
名祥義子もくゆり定て政宗ハ所等など修りて身
ハかなし便也るまじと由はいさしける出るに政宗云ハ一門

八及少の以家申一と由いと右某作何ける我今夜下小
信大坂と老の可一師を河くハ襟にひるべし自原のおき
北くぬきまじ事一つるべし原と襟板とこしは令仙と墨
馬のま先に立し大坂と老り新か末也まは是と信り別
大坂の由女のこみおけぬハ河り逢ふ大坂何事一つるべしと
に河るとぬるふ小大坂作けるハけ交南於信理大師陳
疑事事其もの逃免に信りてなり一ふ信りておるまも一糸はふ

實なり政宗公作とせぬけるハ松若曾て好まざる所也といふ
そ時人困く却と忘小ハ海信事なるれを方自毫と兼平
河りけ兼由ぬと作けぬハ政宗公兼某ふ不是なるまこと
も自毫と兼平有る由知つふ其文云と作史といふ
某愛してお徳河板と毫と引合信とて信川吟味らり
べしとす信り大坂板とく文云と作史といふハ政宗公
別徳先て由引合と信河るにぬる一止とお遠な一政宗

是と見てしまふけるもさきは跡小おひてたいたは謀が自のう毫なり志し
けと飛せハせ鶯の目まなし一は名なく未平にハ目まく玉行り宴を
とひて出で於を義し下へしと作としれけるは是は不依政のなせ
ざるハ沢おま事一は跡小ける其後大用作けるハけ反の一檢を
佐小政宗く必と不也鶯目ま如き一事ハ後の公沢を
カ小し謀なり出るといは神政宗く人割とさるとて秘
使小事跡せりとご自毫く竟と行りなると少く後一

是と遠えとさるは小書面と徳徳只鶯目ま如き目の玉をお遠
むりとひて一案を其と中に記したり言ふかもたる事は後
大人の振お申く自奈のゆの及ぶ不行ふをいひのけいの社を
一の用も立べ一是と取つふてハ却て天下の病行はぬ
勿論大將しも言をささり不なみが喜知くんぎ及び
を別を傳小差を送ひける如した如くも行ふが
い交とさとれの字く一益を想ひ事末に判る事

まほるべし一入生ハ子孫にわたりけりたゞまゝと末代
にとびゆくんとあつてをりなむバ 紀列をいふと語り
まほるのいふて今く 人相をいふは存なきと作今ふれり
あふれり字く一多入如き一事之概ふとまの邊にまの
其長向來下口改く時文字一まくふ是ふ依て人入
に水不あんの時れふりる

由井奥村尾橋基命之事

玄禮小主後尾橋基命曰人正さるる宛小集り終日極く評義
御しける正さるけるハ何事けとく人なりとも味方と集見
たさるる語ふけるは正さるる正さるるの御も也 某思案の仕る
に長首神アまゝ何る人なむバ今とては果有教あり
つべし彼者たと語ふとバ一言も物となるべし尾橋辰巳
事よましとてさるるべしとふ極く長孫也文とお徳君父
の佛とたて天に不可戴とふ然るに神に紀列人相をい

くはれみ信て 今又美無と 揚人と 大望子企る 要や 証
木衣ちりて 君臣の美 未朽む 忠の一字 ことまじり 次
おの忠の 潜小記 著るべし と言 徳久 別家 兼右井 八郎と
使として 口出 上使 玉へ 寄しける 右井 八郎 元来 兼右神ア
徳代 の 物なり 別土 佐玉と 寄る こと 也 了 出 跡 が
本意と 也 違ふ 事 なるに 兼右神ア 徳代 の 物 日 ぬ 奈人
や とうく 詳字 くと 二 ぬ 人 一 味 口 ぬ 証 事 合 々 違
たり

いふは 兼右神ア 徳代 一 証 事 合 々 違 たり
兼右 八郎 兼右神ア 徳代 一 証 事 合 々 違 たり
一 者 兼右 兼右神ア 徳代 一 証 事 合 々 違 たり
一 兼右 兼右神ア 徳代 一 証 事 合 々 違 たり
いと 兼右 兼右神ア 徳代 一 証 事 合 々 違 たり
白く 兼右 兼右神ア 徳代 一 証 事 合 々 違 たり
其後 兼右 兼右神ア 徳代 一 証 事 合 々 違 たり

肥後権左衛門 今一紙其礼と仰かへたよ切てまうさげんと
人と思てしけるバも跡つらくと打負ひ事くをい新中つら
其其要云今一紙申てえよ権み殺してくまんとおら
悪くし取らぬと見えしけるバも跡つらくと打負ひ事くをい新中つら
つらうの義に依て如引しに諦おとなげなるとまふく
徳小のバも方村惟もとせ次を遣ふらつて私宅に海り
勇村子細らつて徳小に入郷をぬぐまな念ふぬ人ごと

暮おて義後治しけるとなり御立日に是田兼りけるバも
やけるハさてと扱も名跡継ぎ八日迄を申すにたきに
遠ひ次う外なる人折なり末くは名跡継ぎ後見とな
んぬハ半殿らぬが何事か見えおらぬと申後たなみ
好お極小つらまほしくかたしけるバも是田私宅に帰
た跡をいんでやけるまのの程急いふをい外後
なり大事と思入まよむ事依て一命と申し

之事大夫の仕業なるとしやすのバ西宮と共えおん
限り強ひお果し取たはも以来ハ急な
一カスベ一と異にして右孫と後継は以後いつ
マベ一西宮と宮中給るべ一とてん候もけりや

是流村子に事

寛永十八年秋西宮令井子と流加茂市古元
朝八といざなふ石存つて後河野と今定石也

小者の方延敷して御石控規ニ系福して西宮にけるハ我
むう一西宮流行し門も小付社小付で神みけり神
車室と忌でどしバニ亥日神垣小入る候う候と書て
ひが神今流の車室の忌でどしバニ亥日神垣小入る候う候と書て
並小せと流のバ又取し小取候う候と書て
小老も人にたふたふと見えし西宮かたをけるハ山
ハ九折りとり十八所と新不呂補院花伽山と告し

其論何なるなる教旨を立て所々然るを田代伝云く
永長山平如物入道伝云く小野けるハ九日本地理と考る
に神小石城と云へけ久能山なり城の中路小井あり
山けりては小野と云ふ收り無糧の用意十のなる
日本の情と以て攻るを落城するに云く云く云く
家康公も四五好く時け久能山と云ふは如親旨子
卯辰後一なりけ洲に合浪無糧を立置けり也

依之由也畧く後山を略し安小野と有りて武蔵洲
となしなるは後日光山の部定なり東照大権現
御旨なる然といふも合浪無糧はけ而に由緒にけり城小
神平山子道と云ふハ先諸府と城はをけり此洲の勢
列希城子攻るを在るに安小野と云ふは安小野と云ふ
に所説日本に諸と引率して無糧と十のなるに
何百なり安小野神也く教りて依之無糧と云ふ

ハ行ぬまは法小依てまねし子ハぬ新ふぐ布夫一ふたぬ
るのや依てけ法ハ世用こ中事ハゆづりふまはるゆ
りたどおの不足なりしも又一ふたぬぬも男子もさくろなる
らバ餘を不足なり一果なるバ何者ハ是れ是れぬ
生男子ハ法ハ変べしと教ひけぬがまふまふバ神
多小まらるべしとて言孫の孫の法ハ一節取おし一
れと書本の後節にはも又父の父とことと一節取おし
小是て其と小依ててけ護府を言孫ハ小法も又小業と

たハ此府を吞なりバ変女男子たぐひなりと云ふぐ
何たけぬハははる別正等の物ハ是れ小法も又小男子等
教一書て不足の事ハとなりけぬハははるゆと云ふの一
一門ハむるまが大きに教び正等の佛法神の教を敬し
何のまふは正等の物事ハ遠一はせん報せんといふ
入魂ハ波しけらるるハ正等のハ久結山不足法村ハ是れ

けり別當令一牧七座とて半分の宅にありけるは、
大いに歎び當令と佛系に傳はぬ弘打なりしに、
此等やけるハ其え小ハ令浪小不足なりしとて、
主人大納公下願波しを、
波しといひは、
とて、
事大なるに、

席小^{こて}心^{しん}を^をけるハ、
形子^{たは}の^たは、
たるは、
大納公^{たなう}は、
物^{もの}なる^{なる}は、
づ^づは、
か^かは、

かつたはは是治まじりてけりばはは治りて神小やまふ
 出判なり私よあまの石斗りつるべし其かまのつ先
 あり石の急あつれをりてとけるにやまふと一礼して
 御しける依るも治りてに戸表にまをかせしに西を治る
 せくしよ石やよ石づつ出扶おるまを拂けりば鐘の内小
 ぬり石のまを賣拂けるにけ年まらまに付る下
 利子治たま志うまも西を治りてけりば一歩も身小付りて

治りてはは治りてけりばはは治りてけりばはは治りて
 西を治りてけりばはは治りてけりばはは治りてけりば
 小まのまを治りてけりばはは治りてけりばはは治りて
 せくしよ石やよ石づつ出扶おるまを拂けりば鐘の内小
 ぬり石のまを賣拂けるにけ年まらまに付る下
 利子治たま志うまも西を治りてけりば一歩も身小付りて
 治りてはは治りてけりばはは治りてけりばはは治りて
 西を治りてけりばはは治りてけりばはは治りてけりば
 小まのまを治りてけりばはは治りてけりばはは治りて
 せくしよ石やよ石づつ出扶おるまを拂けりば鐘の内小
 ぬり石のまを賣拂けるにけ年まらまに付る下
 利子治たま志うまも西を治りてけりば一歩も身小付りて

具匠江之有坊己が家く内久保山に掃ぬき
令死か令と望こふ友く内か十友てて友替居
新波屋仁徳とふ友替や長持けりる小仁徳の答
こえろ小社又代に打く抱下や仁徳の家は
修く抱ふんよとふて尋て小を引訓に研りて
彼よの早運石とふれ以流第し而小久保山
とりたると白旗不及ひけり依る以成故小を作付けり

は令ハ作流し令山豊く流おたる令子小てを小是か
諸の小判とふれに流々久保山まで二十里程の
湖や田平の事遠くは九橋とぶ一おなふしを時も
同一時なふれ形とふもふとをりなふし

妹も居又と流居田店と流事

ある程に或等や石井河内とふ是是一洞居一流と流
是ハ拂ひおたりし然るべき大石流に取れらるる一と形も

今ハ取降座一昨日ハ風吹バ一又方座よふんを教わらに思
ひきりのヤ一山邊で依ら又し衆も西向と云ふが或時又し衆
大黒天像と約束て其自利と云ふ西向中けるハ大黒天
ハ人の心を方印の形を福と神ハ三天神とて申ハ大黒天
花ハ赤姓天石ハ思由一天也又或人西向大黒天と神
事と立致せし一山邊中一流の中一石部と云像とあは
せ大黒天なりとて一山邊で大黒天ハ橋板の二枚目と申

はては方角ハ一と目ぶち言く遠る事と秘傳と云ふ又印
並に柳申候に毛おなりけんハ神と云ふ一人と云ふ柳ハ
世たんのえなるハバ一ト事是ハ候約と云ふ一と云ふ又
善悪たに言袋と云ふ内ハ細免防事と云ふ一と云ふ
一善善公言ハ是ハお二復ハ隠と云ふの理や謹しむ人の
る時ハ言抄せざるに福使来る故に御の是ハ人の是と云ふ
と云ふ一おちの小娘ハおおちと云ふ娘ハ何と云ふ事内ハ

せよと申すなり是とひてふ時ハ今く印と求むるに成
福福各々の心中に有りて語りける又と求めて其心中
及びかたしとふて止ぬ心言福々の道と祈むるに其道
祝然とて握取ぬるものハ諸人西宮の女給の程と云
か思者ハたのしける

西宮平家物語と祈むる事

去程に由井九橋の中平何年天下の大變と云つて夫れ

流しと大變と云ふんと時の變と窺けん天下の吉事の
ては海をく大平なるの其使と云む時と云ふるは
然の奈り小やふら四三に平家物語りて評判と纏る令
二十日巻や福小の巻や中巻とみかてて書物なり其
後後枚の作付今ハ世と稀や一日用の時ハ虎となり
ひざり時ハ嵐と云ふるとハ如秋と事と古人も傳へり成
時ハ流れて平家物語と祈むる握取ぬる本川と紙

たる事と何れもなるは依て又於此より市廳の
目的を以て打たぬ風なり是れもまたなるは依て目と
佛神慈護の他依て御風静なり一から市安くと病を
くぬと打たぬして末代にけぬのみ依てけぬとたると
けぬと心をもめておとすよ、
むのこして今く行なり一け洲を
秘におもたぬとせらるる

の依てとたぬける其後依ては御高徳のなるを
ひけるは御公別依ては御高徳のなるを
け安守御川の先陳依ては御高徳のなるを
とよて御高徳のなるを
御高徳のなるを
れたるやと御高徳のなるを
くたぬとたぬとせらるる

年以形ひりとりぬれ也家引なり依之合人とも合も
盗み用たりとも握系第ひり種と盗ましぬととりあて
取人急ぎける握系先は廻おし一程小川に家入たり依るは
其心こぞひ謀しとぬふしとるさけいふも握系次也
敵のこの後帝もさかんたりつねまらあつたと云りぬバ
握系ぬたたりともさむいふくして馬の操帝とりの免る
も隙小依るはゆいともゆと家おしける握系は信く畏
けるが私の惣小島ともともぬ事にはたす小行もと声と
うけてハ款川中に多く怪と注相きたりともぞ一換りの小
なと云けぬバ依るは白澤たりりと種も水底小行も怪と
切流しく難くゆきゆきと存小行がも字流川と先陳依り
本口弁一高依ともあつ二載握系原右京もよと名のりける
握系私の惣とあめて依るは小水底の怪とありあつハ
娘まら思ふの右馬とえて種はあつおと云ハ武治お

年以形ひりとりぬれ也家引なり依之合人とも合も
盗み用たりとも握系第ひり種と盗ましぬととりあて
取人急ぎける握系先は廻おし一程小川に家入たり依るは
其心こぞひ謀しとぬふしとるさけいふも握系次也
敵のこの後帝もさかんたりつねまらあつたと云りぬバ
握系ぬたたりともさむいふくして馬の操帝とりの免る
も隙小依るはゆいともゆと家おしける握系は信く畏

群一 祠の如辱と宇治川の氷のあはれはとていふし
又其後小八治の戦ひは原平海陸の陳と強ら其日平
衆の大方宗盛と公以金牙知盛公の不知とて加とみり
衣とどたる官女小日尼と病子と巧と陰と原氏とま
于原氏の大於九弟義経公は是と出らしつて後
之衆の慮はけりさつと刃の終り後及やけるハ
原氏小弓又其の道とてりつと是と好よとの病子のめり

とふ義経とて下味も小初て誰々のゆと好居しと後
後取りや野と住人如次と市宗と社と名と道と
物討と名人や信小は作付とてとやとけり信とち於と市
や下と方のゆと好と居とばとよと志やと市宗と
おとらけらとやせとて是は原平と信とて居とて居とて
の及ぶとておとらけ余人に作付とてらとてしとて下
突と下我降とて神下知とて宵とて人とは甲とて取と

と作付ぬけのばら市評きり小洞きり畧てとらと矢を
たづまおけるが秀次也遠よりけしとるる海とこるおきり
おし向とまるとそれバ浪風つらと浪つ沈りの的とまきり
小定ト次第一是とお射換トなバ味りの浪澄神少し
生死の境いふそとん中と初念しと某生て毎ひ本
まに際しななバ目的射さやたバ終ひと一ふ小と射
眼と穿しけバ佛法神意護の事には浪風とつり多し

的もさだり小えへおけぬばら市倣鏡折小鏡し引矢とはは
引るるも矢らなまは次第麻子要とお射知て終しけぬバ
射も味りも口音小射たさやくと答にける是令味り
の浪沈い答小ありとら市一也と生死と他免ま如の
浪静りの的もさだり小えへと答れと末せと射しける
係け的とお射し事義經の不覺なりけ的ハ平家
謀して原氏調状の的や其放ハ是と射る時を

ちへ引三保野ハ女遊のがみんとあま入りやままあまやと引か
 沖な付つけけ木きちちりり引ひ切きててぬぬるるににどどううとと退ひききけるるがが三保
 野の知ち互た換かりりままりりてて汝が腕うでのの強つよききとと三三保保野野ハ
 三保野の首かぶのの骨ほねをを事ことととままにに稱なづけけてて且且
 ろろてて左ひだりををくく別わかれれけるる是こゝはは倭やまとののたたててむむれれと
 是こゝにに一ひとのの死しととけけりり物ものかかととたたしし事ことをを欲ほむむこ
 保たもちちりり甲かぶぢぢおおババ又また指さささぐぐととああるるべべしし何なにぞぞ遊あそぶぶ

のことお念とせん是系流このけいりゅう小こきき及及び不ふ又又系流けいりゅうももととはは
 遊あそびびてて三保野の甲かぶのの志こころににああるる事こと何なにぞぞああららばば福ふく遊あそ
 事ことをを今いま欲ほむむららばば甲かぶととああるるににああららばば次つぎももああららばば打うたたへへ
 事ことををああららむむべべしし母ははのの三保野の首かぶのの骨ほねをを事ことととままにに稱なづけけてて
 又またかかのの事こと信まことじじたりりととままんん又又三保野の首かぶのの骨ほねをを事ことととままにに稱なづけけてて
 遊あそぶぶ事ことををああららむむはは信まことじじたりりととままんん又又三保野の首かぶのの骨ほねをを事ことととままにに稱なづけけてて
 何なにぞぞ御ごめめららるるはは三保野の首かぶのの骨ほねをを事ことととままにに稱なづけけてて且且
 保たもちちりり甲かぶぢぢおおババ又また指さささぐぐととああるるべべしし何なにぞぞ遊あそぶぶ

ミツナリノ原ハ新ト死一士ハ録ニ死モ実感ハ原外ニ古
シキナリトシテ南時平景任ノ上ハ別録ノおニ死モ其
バモヤウ申ト云係ハ不實ハ其田ノ了字ト云ていと
モヤウト云けバ古録ニ成程申云ク四州モ云々
ト云テ其に於て別置ケル然ルニ古言ハ古録ノ目ハ
經意ト云ル事モ云々云々云々云々云々云々云々云々
レバある時初モ云ケル事ト云田小徳ル其合會ニ事

其を其れぐ云けバ古録ニ其事なる事ト云人ト云田
随ハ軍學ホ一奇ト云ホ云々云々云々是ハ依ル古録
室於ニ加祥モ一一首と依ト云云云云云云云云云
祥曰祥モ云々事ハ平景相治ト云祥ノ策モ云々云々
云々云々今ハ三保野ニ云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
祥モ云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
祥モ云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

政宮親小建懐く詞もあらぬ事のみ
たは是又いふ事知のふとさる刑也

理之本の花咲ことこのまのりし身のをら果ぞこれなりける
と政宮親の以疑謀殺まのまうしとさる事
あつ埋木の如くなりし時及んで一命を義
登りて切腹不及びさうこそおれもうたる名君と
謝する時とけさう福小舟のなりあつものなりけり

よ一首なりあつものハつものよ申書也

三浦中門と殿は戸を敷く事

光陰ハ如矢時三保二年四年紀別れる元三浦長門
殿は戸を敷く事帯りし成けり也云ふ松田目えハ成夫
より尾浜水戸の女不松は百部も四軒理以載し作付
尾浜松田ハ世死を以役人とし竹野山城も成り也
竹野水戸の死を以と竹野及帯けるハ福に紀別

小由井山等と云ふ其湖軍等より上と云ふに抱えたり
うらまきしきと云ふと云ふにけしんば三浦及是と云ふて西倉
紀列と抱えたりと事偽らば先年彼に者修り
時北寄山の城下小橋く遠邊仕る木子細りて水押
は原なけるが夫とを言中ては原に中をふんしと換り
あつれる其辰水戸振小おのり水押原に作付地を
吾人其山野谷に水及別水戸水取をり極く水取

くしと云ふ紀列して水抱く事浦山を主はとヤケの三浦
及家出ても右に水振振して水取しきいあつる事
水取合せしあける小西等今水取しきいあつる事
水互振り一旦抄了官と云ふて水取元遠に放り西倉と云
たむお入りしと云ふてハ天下に水同流と云ふて後見は作付
長門や一玄互次と云ふと怒り足美に年人牧野吾存
安富内記三人のつと作付は西倉と云ふて極り

よ西を言て福は事非ぶたなく世と風学仕る果何
た免小形も人如是儼也世内布をぬが能剣杭の以威光を
以て果苗求中、つゝさる事、中、奈剣に以解をさるれ勿後
けはは止らるべし、果、おして、能剣、以、家、来、ね、よ、風、守、は
是、小、柄、や、し、ら、か、中、つ、ち、及、中、さ、る、よ、か、ハ、色、角、勿、後、解、
に、あ、入、世、用、な、り、然、上、ハ、幻、法、な、り、軍、学、な、り、其、
方、指、中、次、中、指、南、治、ま、へ、し、西、を、歌、是、ハ、地、内、大、光、

こ、一、心、を、覚、は、ど、果、は、空、を、宅、住、の、バ、水、一、滴、古、と、合、能、劍
の、由、弱、故、こ、み、な、ら、ば、何、が、高、座、ま、の、由、さ、づ、信、へ、ま、や、卒、忽
み、業、な、ら、ば、換、投、な、り、と、ま、て、わ、し、も、億、す、る、事、や、な、く
中、と、下、敷、り、ける、取、あ、り、中、つ、ち、及、中、さ、る、よ、か、ハ、色、角、勿、後、解、
の、西、を、言、我、能、回、こ、り、と、い、う、ご、も、わ、し、も、億、す、る、利、は、希、古
中、へ、以、た、め、く、臣、ア、ミ、助、ニ、行、ら、ば、次、古、今、世、奴、我、や、是、小、柄
て、も、ま、く、た、ら、せ、世、用、な、り、と、其、後、西、を、言、引、く、名、也、説

てりつて一^た旦^ちお入^ち仰^ち止^せ一^し西^し宮^{みや}と引^ひ入^いたら^ら糸^{いと}不^ふ届^とけ^けとせ^せ
され^{され}冥^{みやう}に^に年^{ねん}人^{にん}牧^{まき}野^の共^の糸^{いと}安^{やす}留^{りゅう}門^{もん}記^き三人^{さんにん}の^の水^{みづ}の^の帳^{ちやう}と
け^ける^る依^よて^て西^し宮^{みや}と^と女^に人^{にん}と^とか^かを^をす^すひ^ひ統^と所^{しよ}と^とな^なり^りと^とな^なり^りと^と
一^い不^ふさ^さ一^いを^をま^まけ^ける^るされ^{され}バ^バを^を上^{じやう}の^の風^{かぜ}吹^ふき^きは^はが^が穿^くぬ^ぬる^るこ
浦^{うら}と^と一^いと^と小^{せう}云^いま^まく^くし^し今^{いま}昔^{むかし}奴^{やつ}の^の名^な部^ぶと^とま^まは^はく^く西^し宮^{みや}
と^と冥^{みやう}と^とみ^み威^い勢^{せい}遠^{えん}近^{きん}と^とつ^つり^りと^とけ^ける^る

廣安人年記六終



